

【海外レポート】

Infection Prevention Society 2017に参加して

～ イギリス マンチェスターにて ～

内田幸子

高崎健康福祉大学 健康福祉学部

1. はじめに

2017年9月18から20日までイギリスのマンチェスターセントラルにて開催された国際感染予防学会（Infection Prevention Society 2017）に参加してきました。今回、その体験をレポートさせていただきます。

2. IPS2017

IPSは世界各国の感染予防の研究者が一同に会する国際学会であり、今回で10回目の開催となります。学会のプログラムは、27のセッションが行われ、18・19日の昼にポスター発表・トークが行われました。

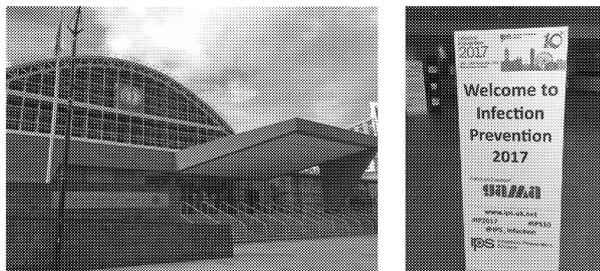


図1 マンチェスターセントラル 図2 入口

3. 研究内容

使い捨て防護服は様々な場面で利用されています。特にエボラ出血熱や新型インフルエンザなど新興感染症罹患患者に最初に対応する医師・看護師・その他の医療従事者を二次感染から守るためには感染対策のための防護服の着用が必須であり、筆者らは昨年度から感染対策用の防護服の研究を行っています。今回は「A Study on Mobility while wearing Infection-Protective Clothing」と題して、防護服のパターンと着脱性について発表しました。図3はポスター会場での写真で、左から共同研究者の田辺教授（山梨大）、小柴教授（文化学園大）、筆者、森本教授（兵庫県立大）、神奈川大学の傳法谷先生が撮ってくださいました。

4. マンチェスター

学会の合間には会場の外に目を向け、マンチェスターの煉瓦が並ぶ街並み（図5、6）や、科学産業博物館（図4）、マンチェスター大聖堂などの散策も行い、歴史と文化そして伝統の大切さを改めて感じました。



図3 ポスター会場



図4 科学産業博物館



図5 市庁舎



図6 中央図書館

5. おわりに

IPS2017での発表は被服衛生学領域を専門とする筆者には直接には関わりがないが、関連する学会への参加で、様々な情報を得ることができました。この経験を今後の研究活動への糧としていきたい。本研究は科研費（基盤 A 15H02581）の助成を受けて行いました。記して深謝致します。

<連絡先>

〒370-0033 高崎市中大類町 37-1
高崎健康福祉大学健康福祉学部 内田 幸子
電話：027-352-1290 FAX：027-353-0025
eメール：uchida@takasaki-u.ac.jp